


～保護者の皆様へ～

 <p>TEAM MINAMI 50</p> <h1>菁莪育才</h1>	<p>第 4 4 号</p> <p>山梨県立甲府南高等学校 第 3 学年（文責：崎田） 平成 26 年 11 月 19 日発行</p>
---	---

☆ 120年あまり前の“ちょっといい話”

本が好きな娘と一緒に本屋さんを訪れた時のことです。一冊の本が私の目にとまりました。タイトルは『東の太陽 西の新月ー日本・トルコ友好秘話「エルトゥール号」事件』、…結局、購入はしなかったのですが、この本に取り上げられているエルトゥール号にまつわる話を思い出しました。

明治 23(1890)年、オスマン帝国(現在のトルコ共和国)海軍の軍艦エルトゥール号が横浜港に到着した。司令官オスマン・パシャを特使とする一行は皇帝親書を明治天皇に奉呈し、オスマン帝国最初の親善訪日使節団として歓迎を受けた。その後、帰途についたエルトゥール号は、和歌山県沖の紀伊大島東方海上で遭難し、紀伊大島の檜野崎に連なる岩礁に激突、座礁・沈没した。この事故で搭乗員 650 名余のうち 587 名が死亡または行方不明となった。

数十mの断崖を這い上って檜野崎灯台にたどり着いた生存者約 10 名は、灯台守に助けられたが、**灯台守は言葉が通じない状況の中で、万国信号本を使用してオスマン帝国海軍であることを知った**という。その後、灯台守は大島村檜野の住民と協力して救助と介抱に当たった。**檜野の住民は、台風の影響で出漁ができなかったにも関わらず、衣類・食料を積極的に提供して救護に努めた**。知らせを聞いた明治天皇も、政府に対して可能な限りの援助を行うよう指示した。各新聞の呼びかけもあって、**全国から多くの義捐金・弔慰金が寄せられ、遭難者に対する支援は国を挙げて行われた**。事故から 20 日後、エルトゥール号の生存者は、日本海軍の軍艦「比叡」と「金剛」に分乗し、オスマン帝国の首都イスタンブールに送り届けられた。

エルトゥール号に関するこの話は、あるできごとを契機に世界中に発信されるようになりました。

イラン・イラク戦争の真っ最中、昭和 60(1985)年 3 月にイラクのサダム・フセインが「イラン上空を飛ぶ航空機を無差別攻撃する」と宣言したときの顛末です。イラン在住の日本人やその家族は、期限前にイランを離れようとテヘラン空港に向かいましたが、日本人が搭乗できる航空機はありませんでした。そんな絶望的な状況の中であらわれたのがトルコ航空の 2 機…。このトルコ航空機は、陸路でも脱出可能なトルコ国民には陸路待避を優先させ、日本人の搭乗を優先してくれたのです。おかげで日本人 215 名全員がタイムリミットの 1 時間 15 分前にテヘランを飛び立つことができました。

後に駐日トルコ大使(当時)ネジアティ・ウトカン氏は「**エルトゥール号の事故の際、日本人の献身的な救助活動を、今もトルコ人は忘れていません。私も小学生のころに歴史の授業で教わりました。トルコでは子どもでもエルトゥール号のことを知っています。**」と語ったそうです。

…トルコ航空機が、絶望の淵に堕ちていた日本人を救ってくれた背景は 1 世紀前のできごとにあります。上述のエルトゥール号にまつわる話は、日本ではあまり馴染みのないものですが、和歌山県の串本町では現在も 5 年に一度、殉難将士追悼式典が行われており、知る人ぞ知る話でもあります。

今回は、思いつくままに約 120 年前のあるできごとに関わる話を書いてみました。

☆ 「一通の手紙」に思う…

先日、家に帰ると私宛の見慣れない文字の葉書が置いてありました。裏を見ると差出人は「与那覇百子」さん…。第50期生は覚えているでしょうか。保護者の方々も御記憶にあるでしょうか。

差出人は、1年前の12月に我々が修学旅行で沖縄を訪れた際、3日目の平和講話の講師を務めてくださった元「ひめゆり学徒隊」の与那覇さんです。

あの日、私は講話を終えられた与那覇さんを、車までお見送りしました。「菁莪育才」第28号(平成25年12月26日発行)にも記しましたが、講話に先立って事務所までお迎えに上がったとき、ソファから立ち上がるにもかなり苦労された様子を目にした後、戦争を知らない世代に対して、懸命にその体験と想いを伝えてくださる和那覇さんの姿に接し、(和那覇さんが私の親の年代に近かったこともあってか)平和祈念堂からお見送りをする際、私は思わず涙をこぼしてしまいました。

そんな私と、和那覇さんは「あなたの御両親はご健在?」「母は健在です…」「そう、お母様を大切にね。」と会話を交わして平和祈念堂を後になされました。

その後、私は1組のバスで大雨の中を移動し、糸数壕からひめゆり会館を経て、ひめゆり平和記念館へ…。ひめゆり平和記念館の見学終了時間間際になぜか出口を間違えた私は、人の流れを逆行しながら入口に向かって歩いているところで、館内に復元された壕の近くで解説ボランティアをされていた和那覇さんに偶然再会しました。バスの出発時間が迫っていたわけですが、私の方から「先程、…」と話しかけると「あら、ここを見学されていたのね」…。ちょうど説明を求めてきた他の見学者に対して、「ごめんなさいね。今、この人と話があるから。」と私のために時間をとってくださいました。

その際、「あなたのお父様とお母様は何をされていたの?」「父は教員をしておりました。母は私が生まれるまでは看護婦を…。」「そう、お母様はその後、お仕事はなされなかったの?」「はい、私が幼い頃、身体が弱かったので仕事は諦めたようです。」「そう、私はね主人と…。」…おそらく1~2分くらいの間だと思いますが、そんな会話をしました。私がバスの出発時間を気にすると、和那覇さんは「気をつけて帰ってね。何か、紙の切れ端でも良いのであなたの住所を書いて。あとで手紙を書きます。」と言ってくださいました。生憎、手持ちの紙がなく、文字どおり紙の切れ端に住所と名前を書いて渡したのですが、渡したものがそんなものだったにも関わらず、和那覇さんはそのメモをとっておいてくださったようです。人は、いろいろな人々と出会いながら生きている…ということを改めて感じました。そのうち、こちらから手紙を書いてみようかな…と思っています。その際には、和那覇さんのお話をうかがった生徒たちが今、大学受験を目指して頑張っていることを伝えます。

☆ 12月の主な予定

日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	月	第4回定期試験(11/27~12/2)	12	金	プレ演習(~12/13)
2	火	生徒集会 学年集会	19	金	推薦入試合格者指導
3	水	三者懇談(~12/9)	23	火	● 天皇誕生日
4	木	P T A 常任委員会(4)	25	木	終業式 大掃除 プレ演習(~12/26)
5	金	プレ演習(~12/6)	26	金	冬季休業期間開始(~1/6)
8	月	交通安全教育指導	29	月	校内立入禁止

次回の学年通信(「菁莪育才」第45号)は、12月25日(木)に発行する予定です。